

販売用資料
2025年3月
(2025年3月8日使用開始)



グローバル全生物ゲノム 株式ファンド

(1年決算型) / (年2回決算型)

追加型投信 / 内外 / 株式

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は
「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。
社名変更後URL: www.amova-am.com

amova
アモーヴァ・アセットマネジメント

アセットマネジメント(am)を
ムーヴ(move)する

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

大和証券

Daiwa Securities

大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、
一般社団法人日本STO協会

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

1980年代後半、医学の進歩のために始まった
「ヒトゲノム計画」は2003年、ついに完了。

4種類の物質の配列で構成された
人間の全遺伝情報が判明。

将来の飛躍に向けた大きな一歩となった。

—そして今...

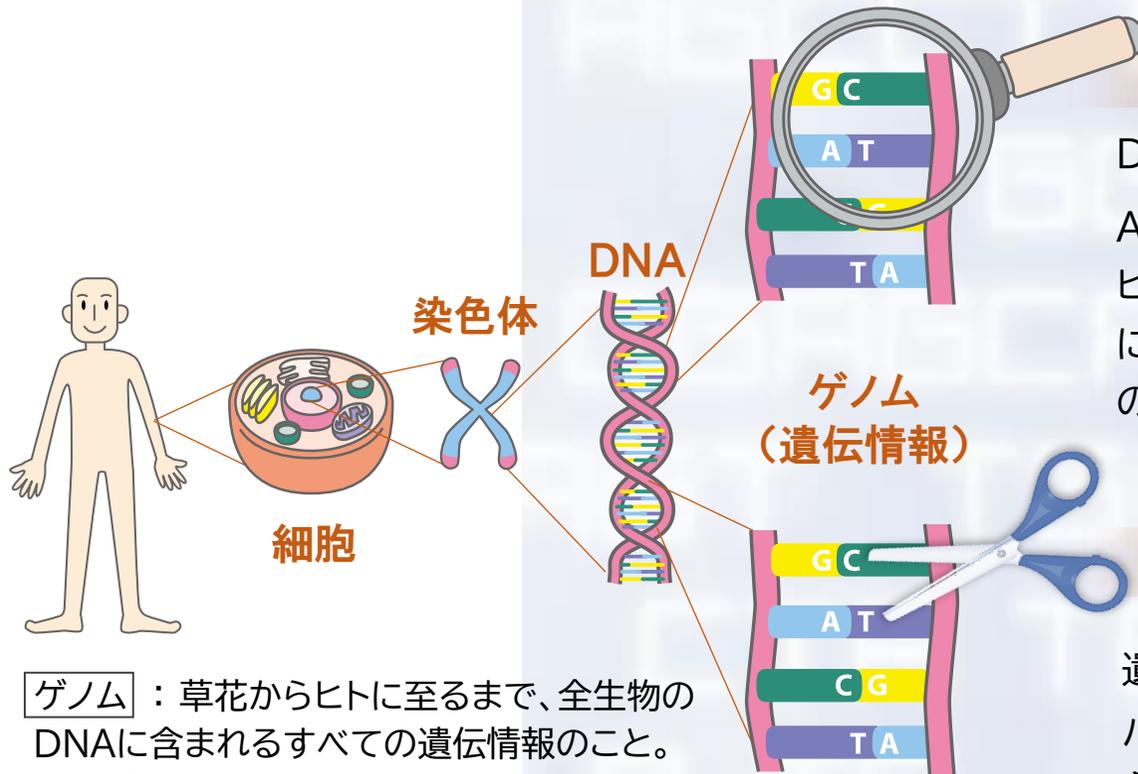
草花からヒトに至るまで、“**生命の設計図**”の解析が可能に。
そして、その“**編集**”も容易になった。

医療・食糧・環境など **人類が抱える課題の解決に。**
世界を変える大きな可能性、ゲノム革命。

グローバル全生物ゲノム株式ファンド
(1年決算型) / (年2回決算型)

人類史上最大級のイノベーション

ゲノム革命 = ゲノム解析 + ゲノム編集



ゲノム : 草花からヒトに至るまで、全生物のDNAに含まれるすべての遺伝情報のこと。いわば「生命の設計図」。

ゲノム解析・編集技術は、「バイオテクノロジー」の中でも、特に近年注目が集まる技術。

※上図はイメージです。

ゲノム解析

DNAの中の遺伝情報が容易に解析可能に。

AIとスーパーコンピュータの進化によって、草花からヒトに至るまで、全生物の「**生命の設計図**」の解析に、道筋がひらかれた。その費用の低下と解析スピードの向上が著しい。

ゲノム編集

クリスパー/キャスナイン

遺伝子編集技術、**CRISPR/Cas9**の登場。バイオテクノロジーにおける「世紀の発明」とされ、主要な開発者は2020年にノーベル化学賞を受賞。従来の技術と比べ飛躍的に扱いやすく、効率・コストの面でも優れることから、「ゲノム編集の革命」**「神の鋏(はさみ)」**と言われている。

SFでも、夢物語でもない。 ベンチャーと大企業が入り乱れ、 巨大ビジネスチャンスに向けて動き始めた。



がんや希少疾患など 医療分野

がんや希少疾患の原因のひとつは遺伝子の異常。

- 2017年時点で、一部疾患でゲノム技術を活用した免疫療法の治験や臨床が始まっている。
- 欧米では遺伝性疾患の遺伝子治療薬の一部は既に承認された。

飢餓撲滅など 食糧分野



地球規模の飢餓撲滅の解決策として、病気に強い作物や栄養価の高い作物のニーズは高まる一方。

- 収穫の多いゲノム編集イネや温暖化に耐えられる作物の栽培に成功。
- 米農務省は遺伝子「編集」作物を、遺伝子「組み換え」作物の規制対象外として発売を認可。

※写真はイメージです。

工業分野や エネルギーなど 環境分野



環境保全や化石燃料の代替など、エネルギー問題解決への貢献にも期待。

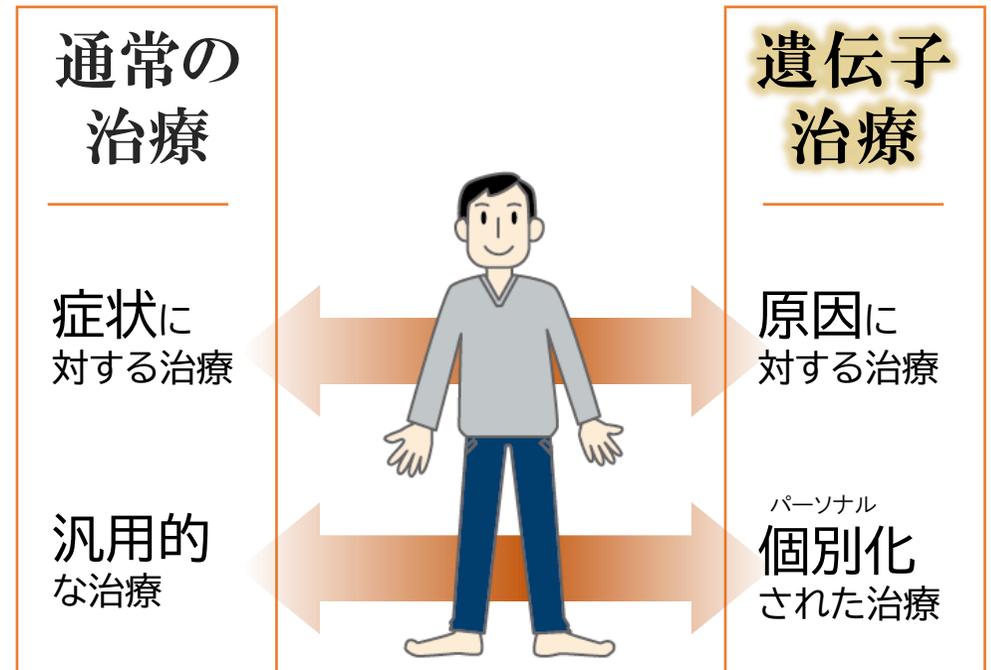
Disruptive Innovation Genomic Revolution

ゲノム革命で 世界が変わる①

ガンや希少疾患など
医療分野

“DNAを手術”する時代へ

- 遺伝子の変異から生じるガンや、遺伝性の希少疾患は、万人向けの薬では根治は困難。
- ゲノム解析に基づく遺伝子治療、あるいはゲノム創薬は、「人生100年時代」に向き合う私たち人類への光明といえる。
- 遺伝子解析に基づく「パーソナル治療」の道がひらくと、無駄な医療費の削減にもつながると期待される。



※上図は一般論に基づくイメージです。

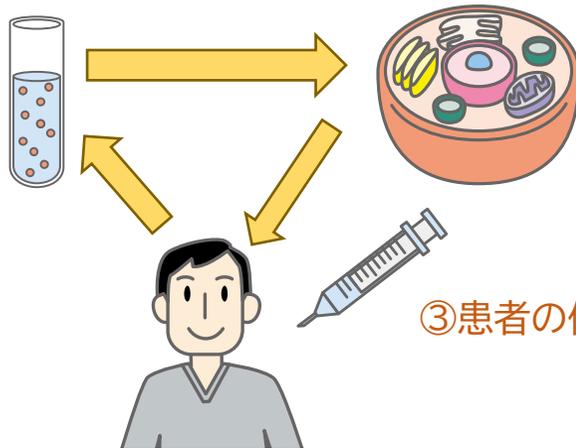
ゲノム編集によるガン免疫療法 次世代CAR-T療法

カ ー テ イ

白血病に対する高い効果が認められ、2017年にスイスの大手製薬会社が新薬の製造販売の承認を米国で得て話題のCAR-T療法。

現在、ゲノム編集技術を用いた「次世代CAR-T療法」の研究が進んでいる。

- ①ガン患者の免疫細胞を取り出す。
- ②ゲノム編集技術を用いて免疫効果を高め、増殖させる。



③患者の体内に戻す。

※上図はイメージです。

大きな市場機会が期待される ゲノム編集による希少疾患治療

<「単一遺伝子疾患」治療の世界の市場規模*>

(10億米ドル)
2,500

* アーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー
(アーク社)による推定の最大市場規模

2,000

ゲノム編集による
希少疾患治療には
大きな需要が存在

約2兆米ドル

1,500

1,000

750億
米ドル/年

500

0

新規患者治療の
市場規模**
(年間)

既存患者治療の
市場規模***

(出所)アーク社 ※上記は、2020年7月時点のアーク社推計

** 新生児など新規の患者が全員、ゲノム編集による治療を受けたとした場合の年間の需要

***既存の患者が全員、ゲノム編集による治療を受けたとした場合の需要

「単一遺伝子疾患」

ゲノムの中のたった一つの遺伝子異常によって引き起こされる疾患。

ゲノム編集を用いる場合、異常のある遺伝子を削除・編集する。

上記は信頼できると判断した情報をもとに資料作成日時時点で期待される成果等を掲載したものであり、実現およびその時期等を約束するものではありません。

※上記グラフ・データは推計であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ゲノム編集による品種改良が 飢餓撲滅に貢献

- 他の生物の遺伝子を注入する「遺伝子組み換え作物(GMO)」とは対照的に、その生物内だけで完結するのがゲノム編集作物。
- ゲノム編集作物については、米農務省はGMO規制に該当しない(従来の伝統的な品種改良と変わらない)との見解。
- 議論されるべき点は多いものの、地球規模の飢餓撲滅の解決策として、ゲノム編集による病気に強い作物や栄養価の高い作物のニーズは高まる一方。

温暖化による不作と人口爆発により、“待ったなし”の食糧問題



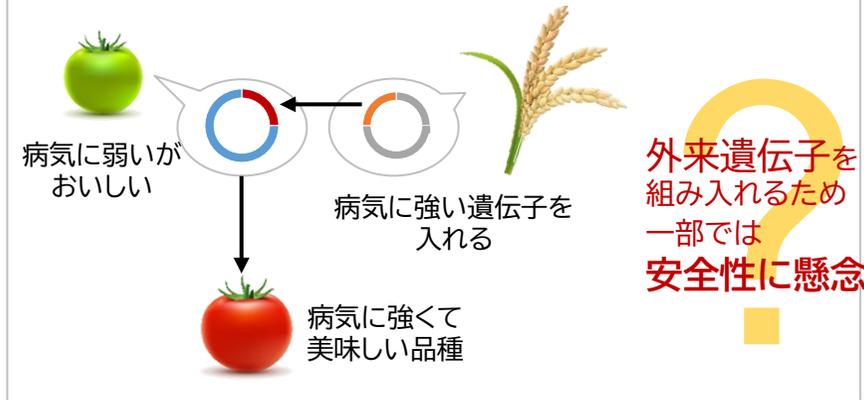
Disruptive Innovation
Genomic Revolution

ゲノム革命で 世界が変わる②

飢餓撲滅など
食糧分野

遺伝子組み換え作物(GMO)とは違う ゲノム編集作物

遺伝子組み換えによる品種改良



ゲノム編集による品種改良



農畜水産業市場で 実用化が進むゲノム編集食品

<実用化が進む、ゲノム編集技術で品種改良された農水産物の事例>



高GABAトマト

血圧上昇の抑制やストレス緩和などの効果が期待される成分「GABA」が通常の4～5倍含有されるトマト。日常の食生活での高血圧予防などが期待される。21年より販売開始。



可食部の多い真鯛/ 高成長のトラフグ、ひらめ

肉厚で可食部分の多い真鯛や従来より成長効率の高いトラフグ、ひらめ。21年以降、順次販売開始。「タンパク質危機*」が危惧される中、効率的なタンパク質食の供給に寄与。



辛みを抑えたカラシナ

辛みが抑えられ、食べやすく品種改良されたカラシナ。23年に米国で販売開始。一般に品種改良は10年以上の年月がかかるが、ゲノム編集技術の活用により、わずか数年で市場に展開。

* タンパク質の需要と供給のバランスが崩れることによる、世界的なタンパク質の供給不足のこと。早ければ2025年から2030年には、需要が供給を超過し始める可能性があると考えられる。各種報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成

Disruptive Innovation Genomic Revolution

ゲノム革命で 世界が変わる③

工業分野や
エネルギーなど

環境分野

環境やエネルギー問題にも貢献

- わずか数リットルの水を汲むだけで、その池や川の環境が解析でき、生態系の把握や絶滅危惧種の保護、乱獲問題の解決などが低コストで可能に。
- 動植物以外でもゲノム解析・編集は活用され、バイオ燃料の増産等による化石燃料の代替、温室効果ガスの削減などエネルギー問題への貢献にも期待。

ゲノム編集された藻類を使ったバイオ燃料の増産



藻類は、温室効果ガス排出量の少ないバイオ燃料のもととなる油脂を体内で生産している。

藻類にゲノム編集を施すことで、バイオ燃料の生産量増加を実現。

上記は信頼できると判断した情報をもとに資料作成日時点で期待される成果等を掲載したものであり、実現およびその時期等を約束するものではありません。

とはいえ、「いのち」に関わることだけに、議論百出は必至。 しかし過去、世界を変えるイノベーションの多くは 「不要だ」「危険だ」と言われてきた。

昔は...

自動車は迷惑



列車の振動が農作物や家畜に悪影響を及ぼし、蒸気機関車の火の粉が火事につながると懸念され、当初は居住地に近いところへの敷設が制限された。

電灯などいらない

「パリ万博が終われば、誰も電灯のことなど語らなくなるだろう(ガス灯の方が素晴らしいのだから)」

—1878年 オックスフォード大学博士



PCなどいらない



※写真はイメージです。

「一般家庭がパソコンを欲しがる理由が見当たらない」

—1977年 業務用コンピュータメーカー創業者

今も...

自動運転なんて危険だ



自動運転なんて危なっかしい。
現に実験中に事故が起きたではないか。
そんなものは不要だ。

キャッシュレスなんて信用ならない。
銀行ではないベンチャー企業に、
お金のことを任せられない。

そんなものは不要だ。

※写真はイメージです。

フィンテックなんて不安だ



それでも、世の中に必要なものは、

議論や規制の成熟と共に(あるいは先行して)前進していく。

世界を変えるイノベーションを、投資家として見続けていきたい。

未来の夢ではなく、すでに始まった現実。 大きく3つのプレイヤー(Player)が競い合う。

[次世代シーケンサー(DNA解析装置)]

CRISPR/Cas9 のうち、特に「ヒト向け」のビジネスを手掛ける主要企業

Player 1 解析装置 製造企業

ゲノム解析を行なう機器などを製造する企業。ゲノム解析コストの劇的な低下を実現。

Player 2 ライセンス 保有企業

巨大なビジネスチャンスにつながるCRISPR/Cas9に関して、激しい特許争いを繰り広げる「ライセンス保有企業」。

イルミナ
(米)

サーモフィッシュャーサイエンティフィック
(米)

などの企業

インテリア・セラピューティクス
(米)

CRISPRセラピューティクス
(スイス)

エディタス・メディシン
(米)

などの企業



出典: イルミナ株式会社



※写真はイメージです。

左記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

Player3 ゲノム編集製品 開発企業

ゲノム検査・治療、ゲノム創薬、ゲノム編集作物など、ビジネス化の動きが急進中。



- ノバルティス(スイス)
ガンCAR-T療法等
- ブリistol・マイヤーズスクイブ(米)
ガンCAR-T療法等
- リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米)
肝臓関連疾患等
- バーテックス・ファーマシューティカルズ(米)
鎌状赤血球症等

などの企業



※写真はイメージです。

ゲノム編集治療法開発に向けた提携事例

インテリア・セラピューティクス(米)



医薬品開発企業など



製品化による収益など

※上図はイメージです。



- 製品あたりのマイルストーン支払い
(開発の進捗状況に応じて支払われる報酬)
- 売上高に対する特許利用料など

(出所) アーク社

資料作成日時点の情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

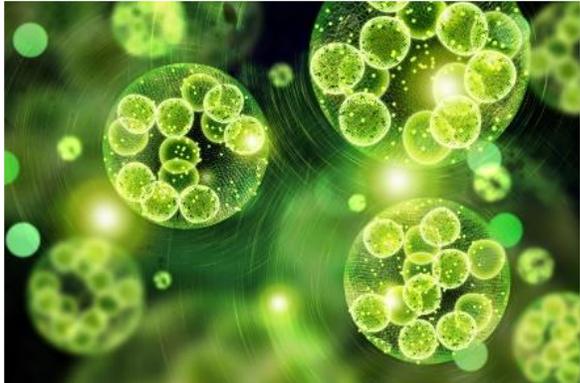
上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

3つのプレイヤーの例 ～解析装置製造企業～

ここでは、「解析装置製造企業」の代表的な銘柄として、以下の銘柄をご紹介します。

 米国	10X・ゲノミクス	時価総額 約 2,733 億円 (2024年12月末時点)	業種 医薬品・バイオテクノロジー・ ライフサイエンス	解析装置製造企業 
-----------------------------------------------------------------------------------------	------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

世界トップクラスの 研究機関に製品を提供



※写真はイメージです。

- 主に単一の細胞に焦点を当てた解析機器やソフトウェア、試薬などの消耗品を提供するライフサイエンステクノロジー企業
- 同社の製品は、世界トップクラスの研究機関などで利用され、多数の研究論文で引用されている

< 株価(月次)と売上高の推移 >

株価: 2019年12月末～2024年12月末(月末値)
 売上高: 2019年12月期～2025年12月期予想



※グラフの株価の期間は、当ファンドの当該銘柄の保有期間を示すものではありません。

※時価総額の換算レートは、1米ドル=157.2円(2024年12月末現在) ※売上高は決算期ベース、予想値は2025年1月時点の市場予想です。

※業種名はGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に基づきます。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

3つのプレイヤーの例 ~ライセンス保有企業~

ここでは、2024年12月末時点の組入上位銘柄の中から、「ライセンス保有企業」の一例として、以下の銘柄をご紹介します。

 スイス	CRISPR セラピューティクス	時価総額 約 5,281 億円 (2024年12月末時点)	業種 医薬品・バイオテクノロジー・ ライフサイエンス	ライセンス 保有企業 
------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

ゲノム編集技術の ライセンスを保有



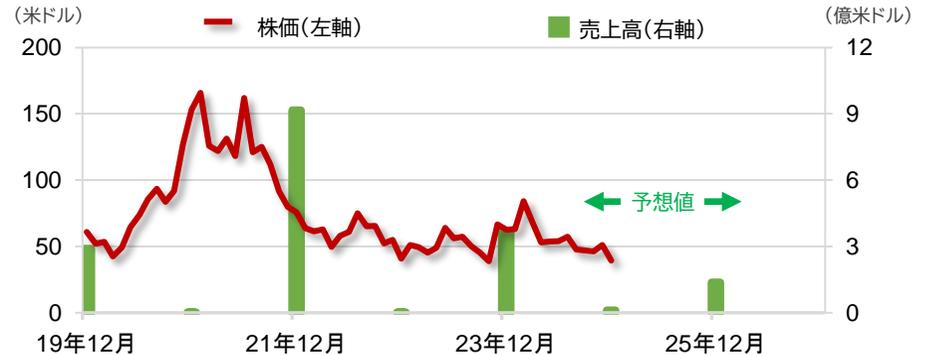
※写真はイメージです。

- スイスを拠点とするゲノム編集企業で、主要なゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」の知的財産所有権を持つ3社のうちの1社です。
- 鎌状赤血球症*などの血液疾患やがん治療のための免疫療法の開発などに力を入れています。

* 赤血球が鎌状(三日月形)になり、壊れやすくなる病気

<株価(月次)と売上高の推移>

株価: 2019年12月末~2024年12月末(月末値)
 売上高: 2019年12月期~2025年12月期予想



※グラフの株価の期間は、当ファンドの当該銘柄の保有期間を示すものではありません。

※時価総額の換算レートは、1米ドル=157.2円(2024年12月末現在) ※売上高は決算期ベース、予想値は2025年1月時点の市場予想です。

※業種名はGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に基づきます。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

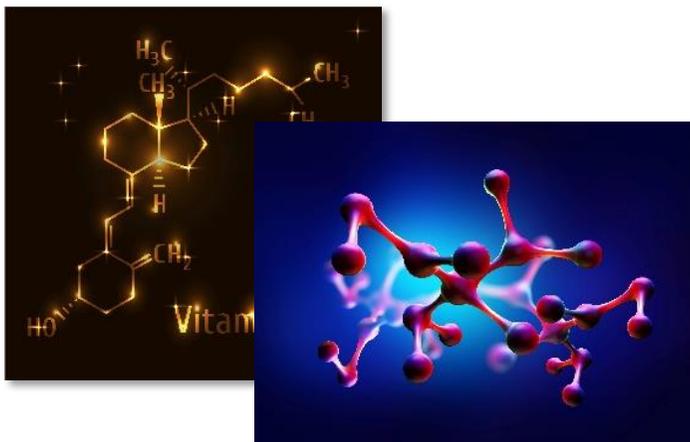
上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

3つのプレイヤーの例 ~ゲノム編集製品開発企業~

ここでは、2024年12月末時点の組入上位銘柄の中から、「ゲノム編集製品開発企業」の一例として、以下の銘柄をご紹介します。

 米国	ツイスト・バイオサイエンス	時価総額 約 4,348 億円 (2024年12月末時点)	業種 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	ゲノム編集製品開発企業 
-----------------------------------------------------------------------------------------	----------------------	--------------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

合成生物学分野のリーダー企業



※写真はイメージです。

- 合成生物学*の知見を駆使し、幅広い業界の顧客向けにDNA関連製品を開発する、バイオテクノロジー企業です。
- 同社は、シリコンチップ上にDNAを書き込んで合成DNAを生成するプラットフォームなど、幅広い製品を開発しています

* 細胞や遺伝子など生物の構成要素を組み合わせて生命機能を人工的に設計したり、人工の生物システムを構築したりする学問分野

< 株価(月次)と売上高の推移 >

株価: 2019年12月末~2024年12月末(月末値)
 売上高: 2020年9月期~2026年9月期予想



※グラフの株価の期間は、当ファンドの当該銘柄の保有期間を示すものではありません。

※時価総額の換算レートは、1米ドル=157.2円(2024年12月末現在) ※売上高は決算期ベース、予想値は2025年1月時点の市場予想です。

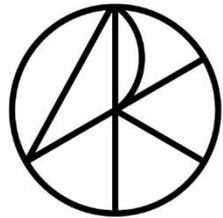
※業種名はGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に基づきます。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

ゲノム革命への投資は
技術への洞察力と投資の知見の双方が必要。
単なる「ヘルスケア」担当のファンドマネージャーでは、困難。



ARK
INVEST

当ファンドの助言会社

破壊的イノベーション 専門運用集団

普通のアナリストは決算を読み、
それに基づくバリュエーションで
株価を評価する。



VS.



アークは違う。
世界を変える技術を読む力を持ち、積極的に
外部識者と議論を深め、未来の世界像から企業と
その株価を評価する。

ARK Investment
ゲノム担当アナリスト

Nemo Marjanovic

マルチオミクス・アナリストとして、様々な
テクノロジーとヘルスケア・セクターの融合に
ついて調査。ARK入社以前は、バイオテクノロ
ジーなどのアーリーステージ投資に従事。



Rong Guo

マルチオミクス・リサーチ・アソシエートとして、
マルチオミクス・テクノロジー分野の企業に関
する分析をチームの他のメンバーと共に行な
う。mRNAなどの研究に従事し、ペンシルベニ
ア大学で生物学の博士号を取得。



当ファンドの取り組み

“生命のイノベーション”に投資する当ファンドの 寄付スキーム*

* 販売会社および日興アセットマネジメントが、当ファンドから受け取る運用管理費用の一部を希少疾患の研究機関や治療現場、支援団体などへ寄付します。

販売会社および日興アセットマネジメントは、当ファンドを通じて得られる収益の一部を希少疾患の研究機関や治療現場、支援団体などへ寄付します。

※原則として、年1回寄付を行ないます。

当ファンドを購入されたお客様は、投資信託の運用を通じた投資先企業のガバナンス向上と、寄付スキームを通じた難病患者の側面支援によって、「ゲノム革命」の進展に貢献されることになります。

販売会社



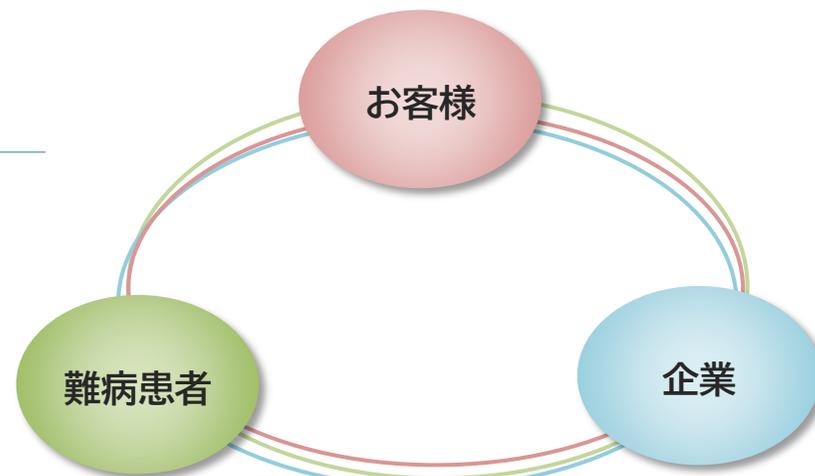
nikko am
Nikko Asset Management

希少疾患の
研究機関

希少疾患の
支援団体

将来的には
実際の治療現場にも

※希少疾患医療関連分野以外への寄付を行なう可能性があります。



寄付スキームを通じて、患者のゲノム治療へのアクセス向上や、将来的には直接的な支援に貢献できる可能性も。

ファンドが投資を行なうことで、企業のコーポレートガバナンス向上に寄与。良質な医療製品の生産を促進。

※上図はイメージです。

持続可能な社会 への貢献も期待される ゲノム技術

- 国連は、2030年までに持続可能な社会の実現を目指す「SDGs(持続可能な開発目標)」を、2015年9月のサミットで採択。
- ゲノム技術は、このSDGsで定められた多くの分野で、多様な貢献が期待される。

持続可能な社会への多様な貢献が期待されるゲノム関連技術

<ゲノム関連技術による解決が期待されるSDGsの目標>



※上図はイメージです。

上記は信頼できると判断した情報をもとに資料作成日時時点で期待される成果等を掲載したものであり、実現およびその時期等を約束するものではありません。

ファンドの特色

1

主に、世界の株式の中から、ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式*に投資を行ないます。

* 預託証券を含みます。

- ゲノム関連ビジネスを行なう企業には、ゲノム解析やゲノム編集を用いた製品の開発・サービスなどを提供する企業があります。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として、為替ヘッジは行ないません。

2

個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。

- イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）からの助言をもとに、日興アセットマネジメント アメリカズ・インク*がポートフォリオを構築します。
- * 2025年9月1日、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクは「アモーヴァ・アセットマネジメント・アメリカズインク」に社名変更します。

3

お客様の運用ニーズに応じて、「1年決算型」と「年2回決算型」の2ファンドからお選びいただけます。

- 「1年決算型」は、毎年12月7日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。
 - 「年2回決算型」は、毎年6月7日、12月7日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とし、基準価額水準が1万円（1万口当たり）を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。
- ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

※ 販売会社や委託会社は、当ファンドから受け取る運用管理費用の一部を希少疾患の研究機関や治療現場、支援団体などへ寄付することがあります。

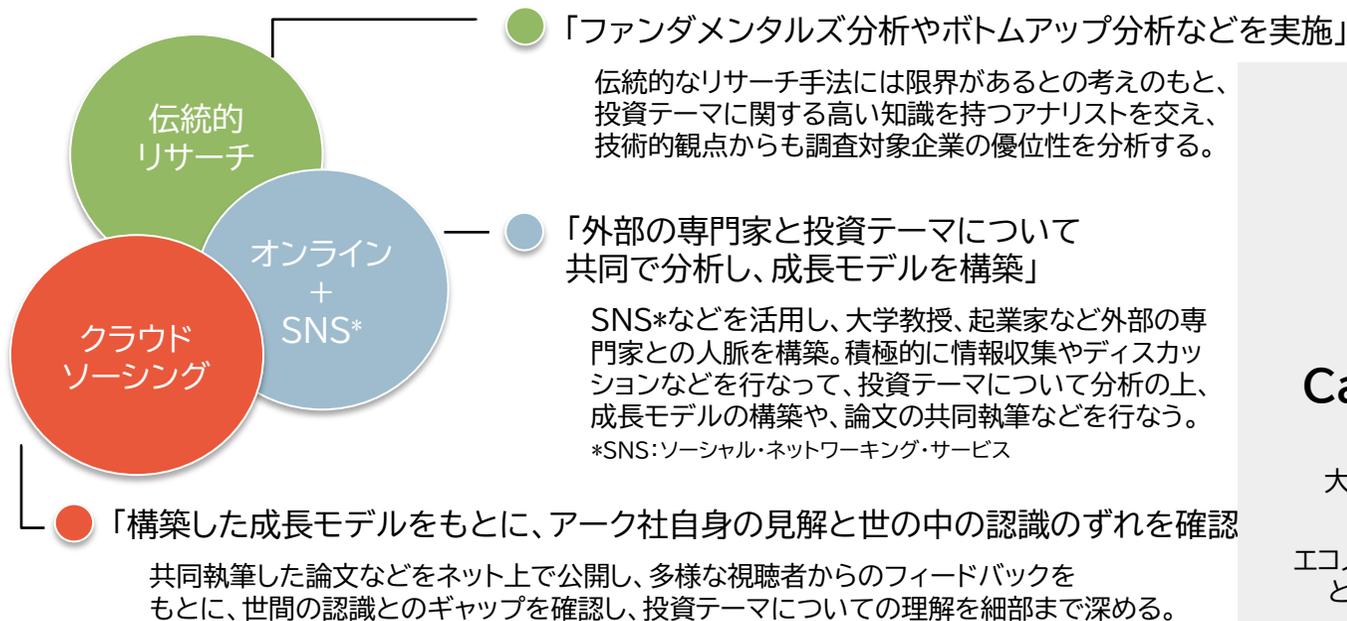
破壊的イノベーション専門運用集団 アーク社

- アーク社は、「イノベーションこそが成長の鍵である」との調査哲学を掲げ、イノベーションの実現者や恩恵を受ける企業の調査・発掘をめざす運用会社です。
- アーク社では、破壊的イノベーションを発掘するには、従来の伝統的なリサーチ手法だけでは不十分と考え、ユニークなプロセスで調査を行なっています。



アーク社のリサーチシステム

伝統的なリサーチ手法で得た情報に加え、外部の専門家と共同研究を行ない、さらにネット上での批評を取り入れて分析の精度を高めていくシステム



Catherine D. Wood
(CEO / CIO)

大手資産運用会社のCIOなどを経て2014年にアーク社を創業。
エコノミストおよび運用プロフェッショナルとして、テクノロジーが起こす変革の調査を行なう。

アーク社が考えるゲノム分類

■ アーク社は、ゲノム関連企業を以下のように分類しています。

5つのゲノム分類

①ゲノム関連ハードウェア(解析・検査機器等)



ヒトや動植物、細菌等それぞれの分野に特化したゲノム解析機器・検査機器等のハードウェアを開発する企業

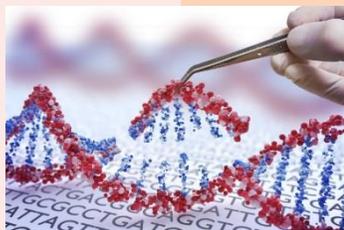
②ゲノム診断



遺伝情報に基づく患者ごとに適した治療内容の決定や、体への負担が少ない手法によるガンの早期発見などのゲノム診断手法を開発する企業

③ゲノム編集 (ヒト)

ゲノム編集技術を用いて、希少疾患などの難病の治療法やCAR-T療法などの免疫療法など、「ヒト向け」の製品を開発する企業



④ゲノム編集 (動植物等)

ゲノム編集技術を用いて、農業・漁業・畜産業や工業・エネルギーなどの非ヘルスケア分野の製品を開発する企業

⑤バイオインフォマティクス等



IoTデバイスを用いた生活・環境データの収集や医療関連データのデジタル化、AIを用いた各種データの分析などを行なう企業

※写真はイメージです。

※上記は2024年12月末時点のゲノム分類であり、今後変更となる可能性があります。

運用実績（1年決算型）

【基準価額と純資産総額の推移】

(2019年1月16日(設定日)～2024年12月30日)



基準価額
9,434円
純資産総額
187億円
2024年12月30日現在

分配金実績（直近5期）

設定来 合計	20年 12月	21年 12月	22年 12月	23年 12月	24年 12月
0円	0円	0円	0円	0円	0円

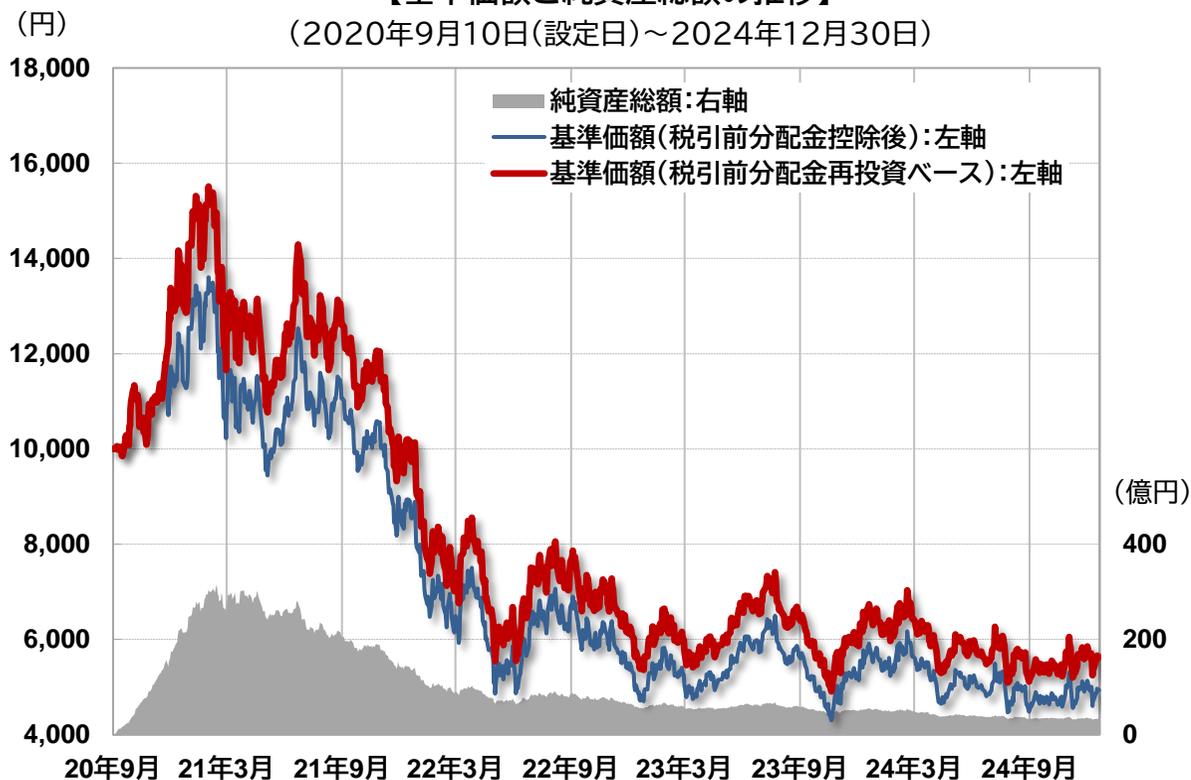
※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

運用実績（年2回決算型）

【基準価額と純資産総額の推移】

(2020年9月10日(設定日)～2024年12月30日)



基準価額
5,623円
(税引前分配金再投資ベース)

4,932円
(税引前分配金控除後)

純資産総額
33億円

2024年12月30日現在

分配金実績（直近5期）

設定来 合計	22年 12月	23年 6月	23年 12月	24年 6月	24年 12月
1,500円	0円	0円	0円	0円	0円

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものにご留意ください。

※分配金額は収益配分方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ポートフォリオの概要（2024年12月末時点）

【通貨別比率】

	通貨	比率
1	アメリカドル	94.3%
2	スイスフラン	2.3%
3	イギリスポンド	2.2%
4	韓国ウォン	0.5%

【国・地域別比率】

	国・地域名	比率
1	アメリカ	88.1%
2	スイス	7.6%
3	イギリス	2.8%
4	韓国	0.5%
5	中国	0.2%
6	カナダ	0.1%

【業種別比率】

	業種	比率
1	医薬品・バイオテクノロジー	84.4%
2	ヘルスケア機器・サービス	11.6%
3	素材	1.4%
4	半導体・半導体製造装置	1.2%
5	テクノロジー・ハードウェア	0.7%

【ゲノム分類別比率】

	ゲノム分類	比率
1	ゲノム編集(ヒト)	41.7%
2	ゲノム診断	34.0%
3	ゲノム関連ハードウェア (解析・検査機器等)	11.8%
4	バイオインフォマティクス等	6.3%
5	ゲノム編集(動植物等)	6.1%

※四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【ポートフォリオの構成上位銘柄】

(銘柄数:42銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	ナテラ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.7%
2	ツイスト・バイオサイエンス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.4%
3	ヴェラサイト	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.2%
4	アダプティブ・バイオテクノロジーズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.1%
5	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	5.3%
6	リカージョン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.9%
7	ガーダント・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	4.7%
8	ビーム・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.3%
9	テンバスAI	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.1%
10	ケアディーエックス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.8%

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に基づきます。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※「ゲノム分類」はアーク社が考える分類です。

【規模別比率】

規模分類	時価総額	比率
超大型株	500億米ドル以上	7.3%
大型株	100億米ドル以上 500億米ドル未満	16.5%
中型株	20億米ドル以上 100億米ドル未満	39.7%
小型株	20億米ドル未満	36.5%

※四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

もっと詳しく!

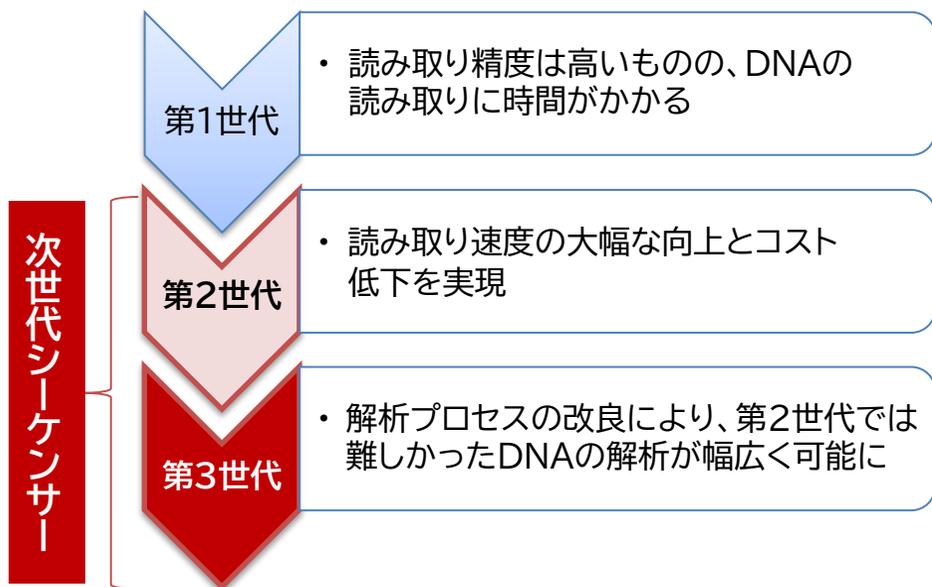
ゲノムをめぐる破壊的イノベーション ①ゲノム解析

ゲノム
Genome

- ゲノム解析とは、4種類(A,T,G,C)の塩基の種類と順番(塩基配列)を調べることを言います。ゲノムの解析に使われるDNA解析装置(シーケンサー)は、ここ10年ほどの技術革新により、劇的に解析効率が向上しています。
- こうした近年のシーケンサーの飛躍的進歩により、ゲノム情報を解析するのにかかる費用は、2001年と比較して10万分の1以下にまで低下し、解析のスピードも、約13年かかっていたものが、今では1日程度で可能となるなど、劇的に短期化しています。

ゲノム解析技術を取り巻くイノベーション

技術革新により劇的に性能が向上したシーケンサー

次世代シーケンサーの登場で
ゲノム解析のコストや期間は劇的に低下

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

もっと詳しく!

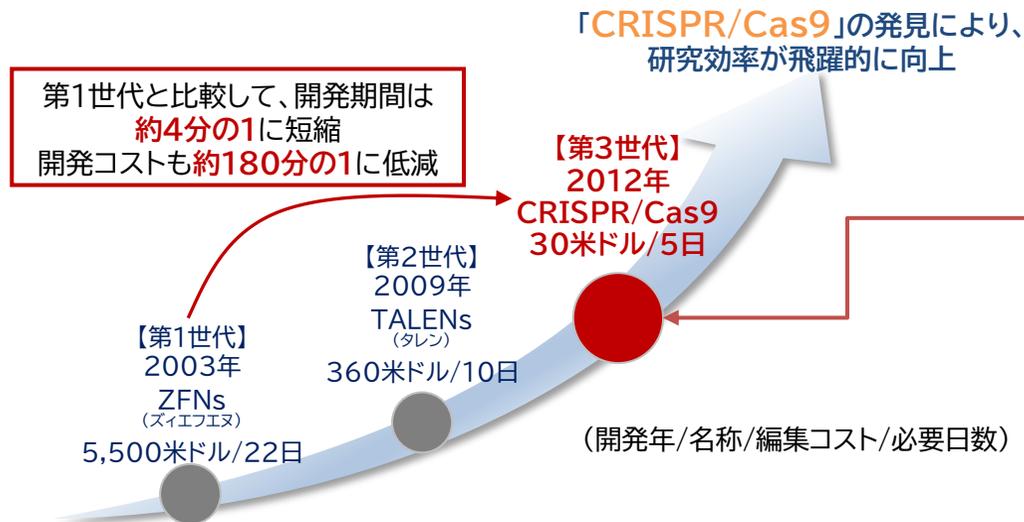
ゲノムをめぐる破壊的イノベーション ②ゲノム編集

ゲノム
Genome

- 2012年には、新たなゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」が開発されました。従来の編集技術と比べて、短期間で大幅に安く編集できることに加え、技術的ハードルが低いことから、この発見により、ゲノム編集における研究効率が飛躍的に向上しました。
- 当初、「CRISPR/Cas9」を使ったゲノム編集は、精度に課題がありましたが、操作技術の進歩により、今日ではA,T,G,Cの文字列の改変が1文字単位でできるようになるなど、編集精度は飛躍的に高まっています。

ゲノム編集技術を取り巻くイノベーション

画期的技術:「CRISPR/Cas9」の
登場で急速に進むゲノム編集研究
＜各ゲノム編集手法と開発コストの変遷＞



CRISPR/Cas9とは?

遺伝子の中に繰り返し現れる特徴的な配列(CRISPR)が持つ性質を利用したゲノム編集手法のことです。

＜CRISPR/Cas9の主な特徴＞

大幅な開発・研究期間の
短縮

大幅な費用の低減

技術の習得が容易

多様な生物に対して
応用可能

アーク社の資料を基に日興アセットマネジメントが作成、2017年時点
※コストはヌクレアーゼ(DNAを分解する酵素)1対あたり

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

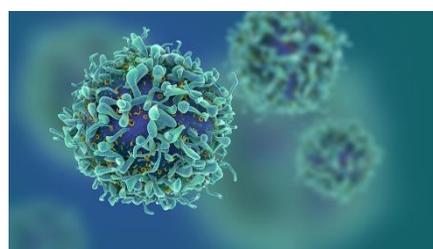
もっと詳しく!

ゲノム技術で変わる医療 ①ガン治療

ゲノム
Genome

- ウイルスなどの異物を発見したT細胞は、異物から身体を守るために増殖したり、免疫細胞に指令を出したりします。しかし、ガン細胞は体内に生じる異物であることから、T細胞が異物として認識しにくいという問題があります。
- CAR-T(キメラ抗原受容体T細胞)療法は、T細胞のガン細胞への攻撃能力を高める治療法で、白血病などに対する高い効果が報告されています。ゲノム編集技術を活用することで、CAR-T療法による治療効果をさらに高めたり、固形ガン治療へ応用する研究が進んでいます。

ゲノム編集技術の進展により期待される次世代治療



【CAR-T療法】

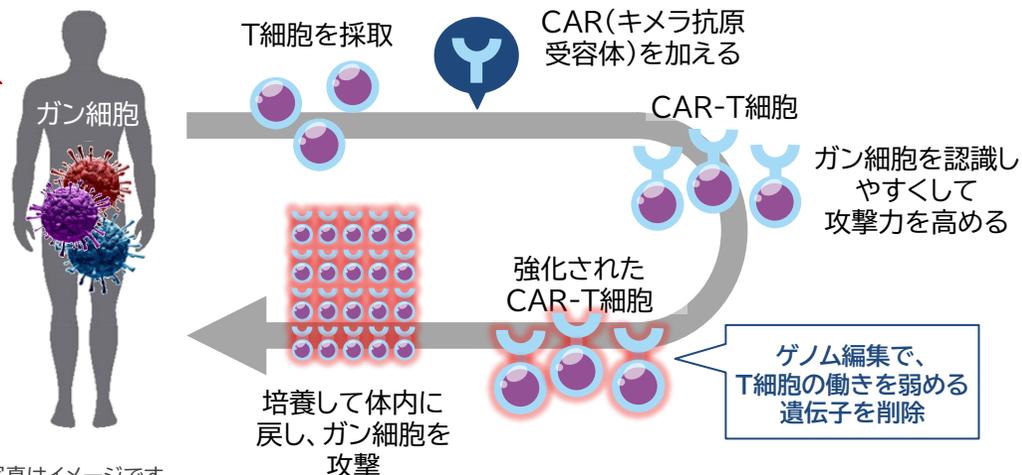
T細胞に、CAR(キメラ抗原受容体)を加えることで、ガンへの攻撃能力を高める治療法。従来の治療法では治療が難しい白血病患者の多くで効果があったことなどから注目を集めた。

実用化の動きが進んでおり、2017年には米国で、スイスの製薬大手ノバルティス社が、白血病向け新薬の製造販売の承認を世界で初めて得た。

臨床試験では、難治性白血病患者の8割以上に治療効果

骨髄腫やメラノーマなど固形ガンの治療に向けたCAR-T療法研究も進む

ゲノム編集で強化されたCAR-T療法は、難治性のガンに対して高い効果が期待される
 <ゲノム編集技術を使ったCAR-T療法のイメージ>



※上図・写真はイメージです。

上記は信頼できると判断した情報をもとに資料作成日時点で期待される成果等を掲載したものであり、実現およびその時期等を約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

もっと詳しく!

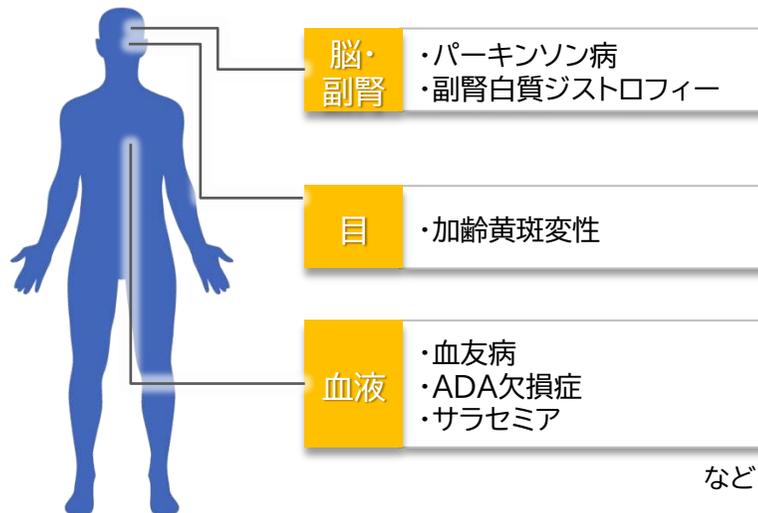
ゲノム技術で変わる医療 ② 遺伝性疾患

ゲノム
Genome

- 100人に1人は生まれながらにして、単一の遺伝子によって起きうる疾患の原因遺伝子を保有しているとされていますが、今日、単一遺伝子疾患のわずか5%にしか治療法は存在しません。近年、ゲノム編集技術を使った治験が開始されるなど、同技術の治療への活用が期待されます。
- また、単一遺伝子疾患は、全遺伝性疾患の2%を占めるにすぎず、ゲノム編集技術の今後の成熟に伴ない、50万種類近い多因子遺伝疾患に対する治療への応用が期待されます。

ゲノム編集技術の進展により期待される次世代治療

ゲノム編集は、様々な疾患の治療法として期待される
 <治療法の実用化が期待される主な難病>



遺伝性疾患の治療に大きな可能性を秘めているゲノム編集技術
 <ゲノム編集による治療の実用化が期待される主な単一遺伝子疾患>



ハンチントン病

発症すると身体が自分の意思とは無関係に動く不随意運動や、不眠、うつ状態などの精神症状など様々な症状がみられる。

ゲノム医療に特化し、遺伝性疾患の治療薬を開発する米国のバイオテクノロジー企業「サンガモ・セラピューティクス」などによって、治療法が研究されている。



レーバー先天性黒内障

レーバー先天性黒内障は、幼児期に発症し重度の視力障害から青年期には失明に至る遺伝性疾患。

CRISPR/Cas9発明者の一人とされるフェン・チャン博士らが設立した医療ベンチャー「エディタス・メディシン」は、同技術を活用した臨床研究の開始を発表。

※上図・写真はイメージです。

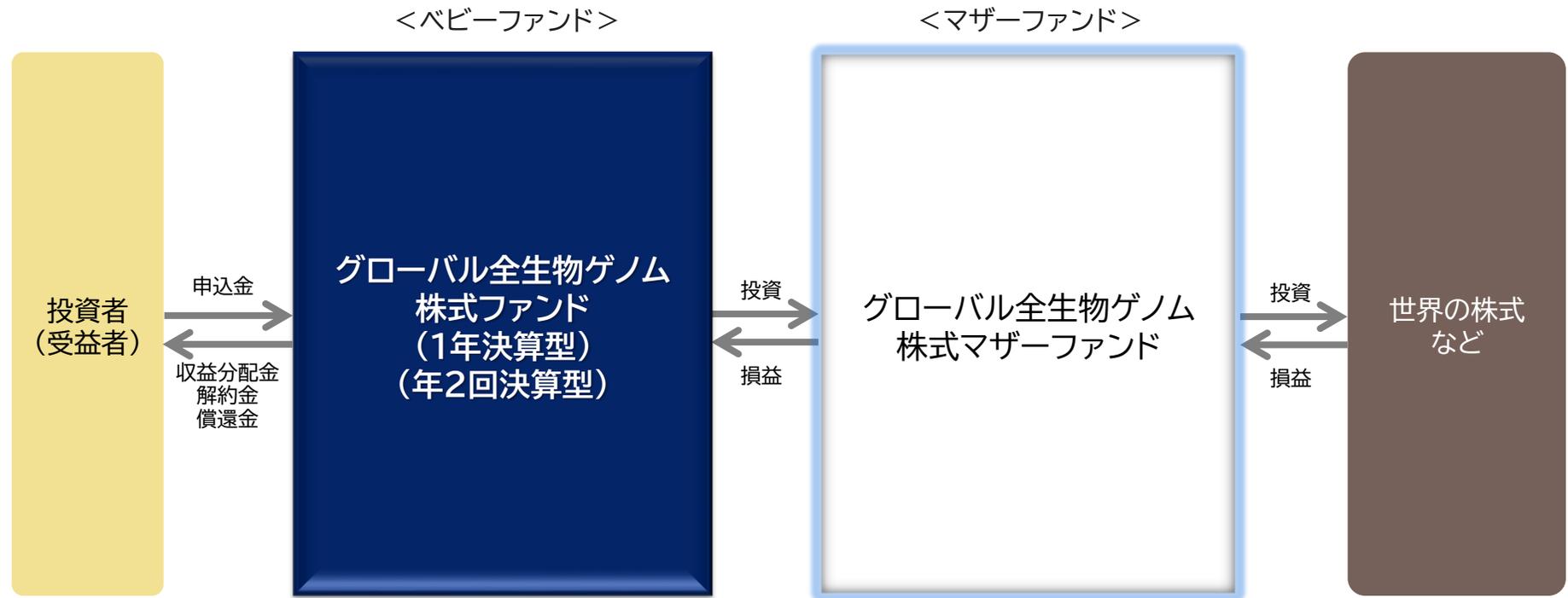
上記は信頼できると判断した情報をもとに資料作成日時点で期待される成果等を掲載したものであり、実現およびその時期等を約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、主にマザーファンドに投資するファミリーファンド方式で運用を行ないます。

※ファミリーファンド方式とは、投資者から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



※「グローバル全生物ゲノム株式ファンド」の各ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります。ただし、販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングを行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

(次ページに続きます)

お申込みに際しての留意事項②

(前ページより続きます)

カントリー・リスク

- ・投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。
- ・上海や深センのストックコネクト(株式相互取引制度)を通じた中国A株への投資においては、取引可能な銘柄が限定されていることに加えて、投資枠や取引可能日の制約、長期にわたって売買停止措置がとられる可能性などにより、意図した通りの取引ができない場合があります。また、ストックコネクト特有の条件や制限は、今後、中国当局の裁量などにより変更となる可能性があります。さらに、ストックコネクトにおける取引通貨はオフショア人民元となり、QFII制度の取引通貨である中国本土のオンショア人民元の為替レートの値動きとは乖離する場合があります。こうした要因から、ファンドの基準価額に影響を与える可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ①

※大和証券でお申込みの場合
 ※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。
 (次ページに続きます)



商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	100円以上1円単位※または100口以上1口単位 ※購入時手数料および購入時手数料にかかる消費税等相当額を含めて上記の単位となります。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時30分までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。 ※販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	1年決算型:無期限(2019年1月16日設定) 年2回決算型:無期限(2020年9月10日設定)
決算日	1年決算型:毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日) 年2回決算型:毎年6月7日、12月7日(休業日の場合は、翌営業日)
繰上償還	次のいずれかの場合等には、繰上償還することがあります。 ・各ファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合 ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	1年決算型: 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 年2回決算型: 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。 ※基準価額の1万円超過額(1万口当たり)について全額分配をめざすものではありません。また分配金額が少額となる場合があります。 ※分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 (注)当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 「分配金再投資コース」をご利用の場合:収益分配金は、税金を差引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。 「分配金支払いコース」をご利用の場合:収益分配金は、税金を差引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。

お申込みメモ②

※大和証券でお申込みの場合
※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。
(前ページより続きます)

ゲノム
Genome

換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
換金制限	ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少など、その他やむを得ない事情があるときは、購入および換金の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた購入および換金の申込みの受付を取り消すことができます。
スイッチング(乗換え)	「1年決算型」と「2年2回決算型」との間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。
信託金の限度額	各ファンド毎に、5,000億円
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※各ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

ファンドの費用①

当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。
 ※大和証券でお申込みの場合
 ※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。



投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。
 <お客様が直接的に負担する費用>

購入金額に以下の手数料率(税込)を乗じて得た額とします。

購入金額	手数料率(税込)	費用の内容
1億円未満	3.3%	販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、ならびに販売の事務等の対価
1億円以上5億円未満	1.65%	
5億円以上10億円未満	1.1%	
10億円以上	0.55%	

購入時手数料

※購入金額=(購入申込受付日の翌営業日の基準価額/1万口)×購入口数
 ※購入時手数料には消費税等相当額がかかります。
 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

(ご参考)

●口数指定で購入する場合

例えば、基準価額10,000円のとときに100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。

購入金額=(10,000円/1万口)×100万口=100万円

購入時手数料=購入金額(100万円)×3.3%(税込)=33,000円

となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくこととなります。

●金額指定で購入する場合

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当該投資信託の購入金額とはなりません。

スイッチング手数料

ありません。

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

(次ページに続きます)

ファンドの費用②

当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。
 ※大和証券でお申込みの場合
 ※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。



(前ページより続きます)

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

<p>運用管理費用 (信託報酬)</p>	<p>ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.804%(税抜1.64%) <1年決算型> 運用管理費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合はその翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。 <年2回決算型> 運用管理費用は、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。</p> <p style="text-align: center;"><運用管理費用の配分(年率)></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="3">運用管理費用(信託報酬) = 運用期間中の基準価額×信託報酬率</th> </tr> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.85%</td> <td>委託した資金の運用の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.75%</td> <td>運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.04%</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価</td> </tr> </table> <p>※表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。 ※マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、上記委託会社が受ける運用管理費用の中から支払います。</p>	運用管理費用(信託報酬) = 運用期間中の基準価額×信託報酬率			委託会社	0.85%	委託した資金の運用の対価	販売会社	0.75%	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価	受託会社	0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
運用管理費用(信託報酬) = 運用期間中の基準価額×信託報酬率													
委託会社	0.85%	委託した資金の運用の対価											
販売会社	0.75%	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価											
受託会社	0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価											
<p>その他の費用・ 手数料</p>	<p>目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する指数の標章使用料などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。</p>												

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
 ※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人



委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	大和証券株式会社 ほか





nikko am
Nikko Asset Management